第72期 中間

株主通信

2019.4.1～9.30

PASCO
Surveying the Earth to Create the Future

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

パスコグループは、「地球をはかり、未来を創る ～人と自然の共生にむけて～」を経営ビジョンに掲げ、空間情報技術の活用による社会課題の解決を通じて、人と自然が共生する未来社会の構築に努めております。

2018年5月には、「当社の技術で何ができるのか」から「社会の課題解決のために何をすべきなのか」へ発想を転換し、きめ細やかな戦略を展開するため、「パスコグループ中期経営計画 2018-2022」を策定、「持続的な企業成長に向けた利益体質への変革」をテーマに、事業戦略の転換、将来への投資を実施しております。

中期経営計画の2年目となる2020年3月期は、前期に引き続き「稼ぐ力」の強化、海外事業の健全化、管理コストの適正化の3つの課題解決に注力するとともに、新たに未来人材育成、IoT時代のサイバーセキュリティ、NewSpace時代への挑戦を掲げ、将来の成長に向けた戦略的投資を開始しております。

ここに、中期経営計画の達成に向けた取り組みの状況と2020年3月期第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで、以下「当期」）における決算の状況についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
島村 秀樹

パスコグループ中期経営計画 2018～2022

～ 持続的な企業成長に向けた利益体質への変革 ～

〈目標〉 **2022年度 グループ連結営業利益額を倍増**
（2017年度のグループ連結営業利益額20億円から40億円に）

〈方針〉
- データ流通社会の到来に向けた事業戦略の転換
- 新たな空間情報の活用を見据えた将来への投資

2020年3月期 方針

継続方針

「稼ぐ力」の強化	海外事業の健全化〈完結の年〉	管理コストの適正化

新たな方針（戦略的成長投資）

未来人材育成	IoT時代のサイバーセキュリティ	NewSpace時代への挑戦

中期経営計画の達成に向けた取り組み

中期経営計画の2年目となる当期の活動状況についてご報告申し上げます。

●「稼ぐ力」の強化

事業分野を細分化し、営業と技術が一体となった営業戦略の展開と生産稼働率・生産性の向上を図っております。さらに、中長期的な視点に立って政策動向を見極め、将来の到達すべき姿を描き、今、何をすべきかの提案活動に努め、当社が担う事業領域の拡大に努めております。

● 海外事業の健全化

2020年3月期を「完結の年」と位置付け、2019年7月24日に開示した北米子会社の株式譲渡、8月23日に開示した欧州子会社の解散など、海外事業の健全化を進めております。一方、新たな事業戦略として、衛星事業の海外展開の強化、日本で積み上げた経験と実績を東南アジア諸国に展開する取り組みを開始しております。

● 管理コストの適正化

「スマートな本社」を目指し、全国の拠点から本社へ寄せられる年間7千件以上の問い合わせに対して、2019年10月から、コンピュータが自動応答する「チャットボット」の運用を開始しております。

さらにRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の実装を進めるなど、利益体質への転換を進めております。

● 未来人材育成

将来にわたる企業成長に欠かせないAIやイノベーション人材の育成強化に努めております。空間情報技術者のAIリテラシーの向上を図るために当社オリジナルの3つの教育プログラムを策定、オープンイノベーション人材については、セコムとの共同プログラムを実施し、未来人材の育成を開始しております。

● IoT時代のサイバーセキュリティ

当社売上の約8割を占める国内公共部門の事業は、国や地方公共団体をお客様とする行政業務支援事業です。そこで、安全に安定した行政支援サービスを提供するための情報セキュリティの強化、さらに、生産性向上に資する社内の基幹システムの増強も図っております。

● NewSpace時代への挑戦

世界的な潮流になっている民間主導の超小型衛星の活用ビジネス「NewSpace」分野への挑戦を開始しております。超小型衛星の活用ビジネスに取り組む企業との提携、大学・研究機関との共同研究に加え、2020年度に打ち上げを計画する国産の先進光学衛星「ALOS-3」の国内外へのプレセールスも開始しております。

当期の事業活動と決算の状況

当期の活動状況について、国内部門では、国土強靱化対策の一環として、河川・山間部・森林などの現状を3次元的に高精細に把握する最先端のレーザー計測技術による測量・計測業務のほか、公共施設や道路・下水道などの長期修繕計画の策定を含むインフラマネジメント業務、大規模造成地のリスク評価などの提案活動に注力いたしました。さらに、当期より販売を開始した地上部と水底部を同時に計測できるドローン搭載型のグリーンレーザースキャナにおいては、河川管理やi-Constructionの計測現場での活用を拡大しました。また、民間企業向けのサービスとしては、前期に引き続き、鉄道用地や不動産にかかわる管理の高度化と情報共有のためのソリューション提供、物流業界の効率化を支援するソリューション提供の事業拡大に努めました。

海外部門では、海外子会社の経営の最適化を進める一方、災害・環境対策、インフラ整備と維持管理などの事業戦略の検討を進めております。また、革新的な空間情報ソリューションの創出を目指して、海外企業との戦略的パートナーシップの締結に向けた覚書を締結し、具体的な事業戦略の検討を開始いたしました。

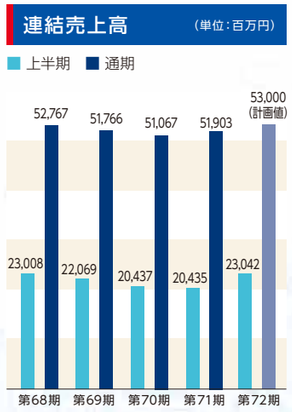
● 決算の状況

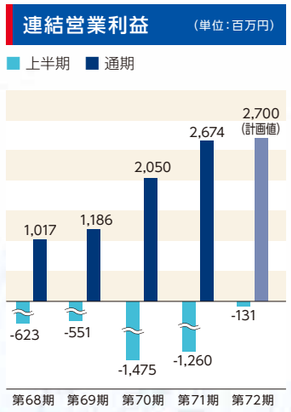
当期の連結受注高は41,412百万円（前同期比12.0％増）、連結売上高は23,042百万円（同12.8％増）、連結受注残高は38,363百万円（同3.5％増）と前期実績を大きく上回ることができました。部門別の状況は以下のとおりです。

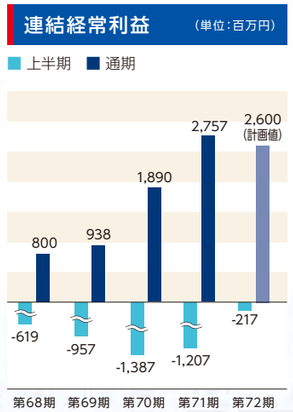
国内公共部門の受注高は35,036百万円（同11.9％増）、売上高は17,947百万円（同15.4％増）、受注残高は30,592百万円（同9.5％増）となりました。国内民間部門の受注高は3,651百万円（同10.1％増）、売上高は2,932百万円（同3.9％減）、受注残高は6,059百万円（同10.1％増）となりました。海外部門の受注高は2,724百万円（同16.2％増）、売上高は2,161百万円（同18.3％増）、受注残高は米国の子会社Keystone Aerial Surveys,Inc.の連結除外による減少などにより1,711百万円（同52.7％減）となりました。

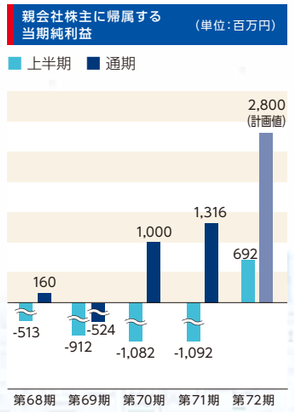
利益面につきましては、売上総利益は4,924百万円（同34.8％増）となり、営業損益は前期比1,129百万円改善し131百万円の営業損失、経常損益は前期比989百万円改善し217百万円の経常損失、親会社株主に帰属する四半期純利益は692百万円となりました。

なお、2019年7月24日、8月23日、10月25日付の適時開示にてお知らせした事項に関して、連結決算に与えた主な影響額は、米国子会社（Keystone Aerial Surveys,Inc.）の株式売却益（1,848百万円）、欧州子会社（PASCO Europe B.V.）の解散にともなう税金費用の戻り（508百万円）、事業用不動産と社宅の一部を譲渡する方針を決定したことによる減損損失（983百万円）などとなります。また、これらの計上に加え、受注が好調な国内部門の上振れ見込みなどを勘案した業績予想の修正を2019年10月25日付で開示しております。









通期の見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、依然として、森林環境譲与税の施行や、国土強靱化基本法、水道法、土砂災害防止法などの各種法改正に伴う計測業務やデータ整備・活用のニーズが拡大しております。また、労働人口の減少や働き方改革の推進により、将来を見据えたICTの活用による情報の管理や活用の高度化ニーズも高まっております。

このような事業環境下において当社グループは、「地球をはかり、未来を創る～人と自然の共生にむけて～」を経営ビジョンに掲げ、「パスコグループ中期経営計画2018-2022」の達成に向け、グループ一丸となって取り組んでまいります。

なお、2020年３月期の業績予想につきましては、2019年10月25日に開示しましたとおり、売上高を53,000百万円、営業利益を2,700百万円、経常利益を2,600百万円、親会社株主に帰属する当期純利益を2,800百万円に、それぞれ上方修正いたしました。期末配当につきましては１株あたり15円を予想しております。

3つの優位性で独自の競争力を発揮

「近接の視点（Onsite Sensing）」と「遠隔の視点（Remote Sensing）」から地球上のあらゆる事象を捉え、さらに、AI（人工知能）やIoT、GIS（地理情報システム）、画像処理などを活用した「分析・解析技術」を加えた３つの優位性を融合した技術力は、当社独自の競争力です。

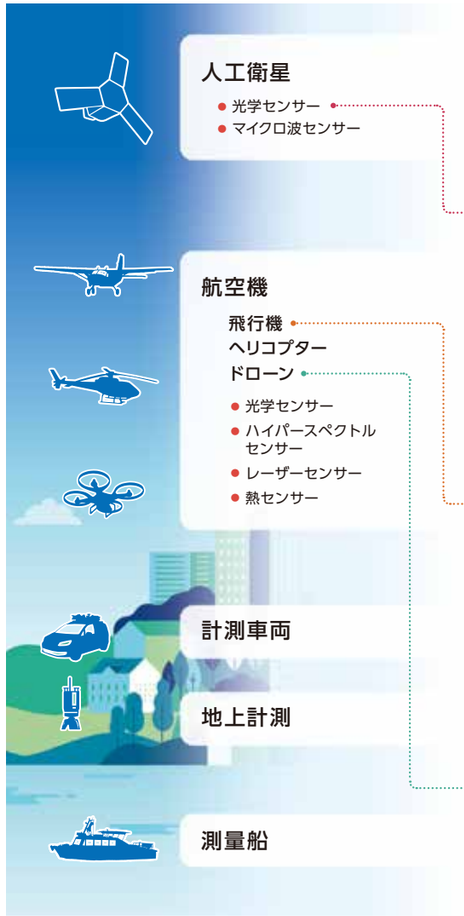
２つの視点から収集した空間情報によって、現実の社会をコンピュータ上（仮想空間）に構築し、解析・評価・分析する技術によって、過去から現在を捉え、そして将来を予測することによって、最適な解決策を導き出しています。そして、現実空間にその解決策を実装した成果を検証し、再び、仮想空間にフィードバックすることを繰り返し、より有効な解決策の提供に努めています。

近接の視点 Onsite Sensing

災害、環境、森林、道路、上下水道、都市、ダム、河川、港湾、橋梁など社会のあらゆる課題の現場に身を置き、現場の実態を見て、聞いて、触ることによって社会の現状を捉えています。

遠隔の視点 Remote Sensing

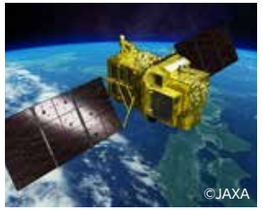
多彩なプラットホームに最先端のセンサーを搭載して地上の様子を捉えています。



新たな先端技術

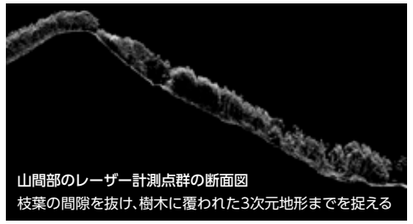
国産の先進光学衛星「ALOS-3」
いよいよ、2020年度打ち上げ（予定）

地上分解能80cmの精度と、一度に撮影できる観測幅70kmの性能を兼ね備える人工衛星は、ほかに類を見ません。この国産衛星の打ち上げが世界中から注目を浴びています。当社は、本衛星の運用と撮影成果の活用、世界市場への流通を担っています。



航空機搭載型の新技術
レーザー計測機の稼働開始

航空機から地上にレーザーを照射し、高精度な3次元座標データを計測する最新技術の稼働を2019年8月から開始しました。森林に覆われた山間部の3次元地形計測のほか、河川やその周辺、都市部の高精度な3次元計測に威力を発揮します。



山間部のレーザー計測点群の断面図
枝葉の間隙を抜け、樹木に覆われた3次元地形までを捉える

ドローン搭載型の新技術
グリーンレーザースキャナの稼働開始

2019年2月に実用化研究に成功したドローン搭載型グリーンレーザースキャナは、4月から販売を開始し、全国の国土交通省地方整備局で導入が進んでいます。本技術は、災害に強い河川管理の高度化のほか、さまざまな分野での活用が期待されています。

国土強靱化に向けて、空間情報の活用を加速

政府は、2018年に発生した多くの自然災害を踏まえて、防災・減災、国土強靱化対策に3年間で約7兆円の予算を配分しています。さらに、国土交通省では盛土や液状化対策を、農林水産省はため池対策などの法整備を進めています。

当社は保有する技術で土砂災害危険箇所の再点検、道路法面調査、地盤モニタリングなどの各種調査を支援するとともに、ハザードマップ(土砂災害・河川氾濫・地震・津波ほか)の整備、自治体における新たな防災システムの構築などの支援に取り組みました。

特に、気候変動に伴う暴雨災害への対応が急がれています。当社は、新たに開発したドローン搭載型グリーンレーザースキャナをはじめ、最先端の計測技術によるリスク評価の高精度化と管理の高度化を進めています。

対象エリア	パスコが担う業務領域
河　川	3次元地形の把握、越水・決壊リスクの評価、治水計画の策定、日常点検の効率化、ハザードマップの整備、住民への周知など
山間部	3次元地形の把握、土砂災害リスクの評価、安全対策、森林の健全化対策、ハザードマップの整備、住民への周知など
都市部	3次元地形の把握、内水氾濫・液状化リスクの評価、都市防災計画の策定、ハザードマップの整備、住民への周知など

災害緊急撮影

2019年10月
台風19号豪雨災害

10月6日に発生した台風19号は、非常に強い勢力を保ったまま、12日19時前に伊豆半島に上陸、各地で猛威を振るいました。群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、新潟県、岩手県の広範囲にわたり、河川の越水・決壊などが発生しました。

当社は、被災地域の状況把握、関係各団体への情報提供の観点から、天候の回復を待って、直ちに人工衛星や航空機を活用した緊急撮影を実施しました。活動の成果は当社ホームページでも公開しておりますのでご活用ください。

https://www.pasco.co.jp/disaster_info/

海外戦略

米ヴェリスク社と戦略的パートナーシップ提携に向けた覚書を締結

左)パスコ　代表取締役社長　島村秀樹
右)ヴェリスク社　CEO　スコット・スティーブンソン

2019年7月24日、データアナリティクス大手のVerisk Analytics, Inc.(米国NASDAQ上場、連結売上高:約2,630億円、連結従業員数:約8,300名、以下ヴェリスク社)と、日本・アジア地域をはじめとしたグローバルな視野での、空間情報を活用した革新的ソリューションの共同開発を目的とした戦略的パートナーシップ提携に向けた覚書を締結しました。

覚書締結後、技術・営業・事業企画担当のメンバーで構成する社内プロジェクトを立ち上げ、9月には、ヴェリスク社CEO スコット・スティーブンソン氏がパスコ本社に訪れるなど、新たな空間情報ソリューションの創出に向け、具体的な取り組みを開始しています。

人材育成

空間情報×AI　当社オリジナルの育成プログラムが始動

空間情報の新たな活用ビジネスの創出に向けた未来人材の育成に努めています。特にAI人材の育成に関してはAIリテラシーの向上と技術者育成を目的に、当社オリジナルのプログラムを3段階に分けて策定し、当期から教育プログラムの実践を開始しています。

レベル1　e-learningによるAI基礎知識

技術者のAI基礎知識の向上を目的として全11講座を当期に実施、130名の技術者が受講を完了し、今後、順次受講者数を拡大する計画です。

レベル2　ワークショップによるAI技術にかかわる課題解決

当社内の組織でAIを業務に適用する上での注意点や課題を把握するため、AIの疑似体験、組織論、AI言語を用いた実習などを実践しています。

レベル3　機械学習の実務トレーニング

レベル1・2を完了した技術者を対象に、実際の業務シーンに応じた、より実践的なAI技術の実装方法を習得するプログラムを作成し、今後、実施していく計画です。

Exhibition & Seminar

新規顧客の開拓に向けて

展示会への出展　**自主企画セミナーの開催**　**などを勢力的に展開**

国内外で開催される学術集会での論文発表や企業展示のほか、展示会への出展、自主企画セミナーの開催などにより、当社の技術・製品・サービスを紹介、新規顧客の開拓に努めています。今期の代表的な取り組みをご紹介します。

宇宙×空間情報の利用による新たなイノベーション

自主企画：衛星データ活用セミナー

【会期】2019年5月／【会場】東京・日本橋ホール

超小型衛星の開発や打ち上げコストの縮小が進む衛星活用分野では、民間主導のNewSpace時代へと突入しています。

本セミナーでは、宇宙関連の公的機関や衛星画像の活用に取り組む方々をお迎えし、200名を超える受講者を集め、盛大に開催しました。当分野の関心と期待の高さを実感することができました。

適切な下水道管理で、水害の脅威に立ち向かう

下水道展'19横浜

【会期】2019年8月／【会場】パシフィコ横浜

短期・集中的な豪雨は、下水道の処理能力を超えて逆流し、都市部の浸水（内水氾濫）を引き起こします。さらに、管渠の老朽化への対策も急務となっています。

当社ブースでは、下水道管理の高度化・効率化を支援するさまざまな技術をご紹介し、自治体の方々を中心に多くのお客様にお越しいただきました。

アイ・コンストラクション市場に測量会社の技術を披露

第2回 建設・測量生産性向上展

【会期】2019年5月／【会場】幕張メッセ

昨年に引き続き、航空測量会社として唯一の出展となりました。今年も、ゼネコンをはじめ、大小・地域さまざまな建設工事会社、建設コンサル会社、測量会社などのお客様にご来場いただきました。

今回は「国土とインフラ管理のICT化」をテーマに、建設現場の生産性向上に向けたパスコの取り組みを紹介しました。

物流業界の生産性向上を支えるために

ロジスティクスソリューションフェア 2019

【会期】2019年8月／【会場】東京ビッグサイト

物流業務の効率化や高度化を支援するために、新たに開発したソリューションやトラックドライバーのナビゲーションシステムとの連携などをご紹介しました。

当日は、全国の物流業や小売・サービス業、荷主である製造業の方々など、400名を超えるお客様に当社ブースにお越しいただき、ニーズの高さを肌で感じることができました。

現状と今後の展望、事例を交えて一挙紹介！

自主企画：i-Constructionセミナー

【会期】2019年8月／【会場】東京・ベルサール神田

拡大を続ける「i-Construction」市場。当分野の最新事情と今後の展望をテーマにした自主企画のセミナーを開催しました。

基調講演に業界の第一人者である大阪大学大学院の矢吹信喜教授をお迎えし、先進的な2事例を交えた講演プログラムで、会場に用意した約220席は、ほぼ満席となりました。

空間情報でデジタルガバメントを推進

地方自治情報化推進フェア 2019

【会期】2019年10月／【会場】東京ビッグサイト

ICTを活用した行政業務の効率化や住民サービスの向上が推進されるなか、当社ブースでは、空間情報を活用した自治体向け情報システムサービスをご紹介しました。

ブースの前面に設置した大きなモニターでの動画を交えたプレゼンテーションでは、多くのお客様に足を止めていただき、サービスをご案内することができました。

未来のパスコを担う　若き社員たちの挑戦

防災技術部門
平田 育士さん

空間情報技術で土砂災害を防ぐ

人工衛星から地上測量まで、空間情報を取得するあらゆる技術を備えているところに魅力を感じ、パスコに入社しました。入社後、土砂災害対策に関する業務を経験し、今年４月から国土技術政策総合研究所へ出向し土砂災害対策を効果的に実施するための研究を行っています。

今後は、研究成果を活かして社会に貢献するとともに、これらの技術を次世代へ伝えていきたいと考えています。

新空間情報技術部門
キム キョンチェさん

日々成長できる環境に身をおいて

個々の得意分野をしっかり評価してもらえると感じ、パスコに入社しました。現在は、今年導入したドローン搭載型グリーンレーザースキャナの分野で、検証や新たな活用方法の提案などを行っています。

小さな気付きから新たな発見があったり、相談できる専門家が周りに多くいる環境のおかげで、日々技術への理解が深まっています。今後も一人の技術者として活躍し続けていきたいと思います。

流域水管理技術部門
竹内 明香さん

信頼される技術者を目指して

「将来、空間情報技術を使って社会貢献がしたい」という学生時代からの思いが、入社のきっかけでした。現在、下水道事業の地方公営企業法適用化業務支援に携わり、事業経営の土台となる固定資産調査・評価を行い、法適化に向けたサポートを行っています。

品質の高いデータを提供できるよう、常に細心の注意を払い、自身の知見を深め、信頼される技術者を目指していきたいと思っています。

公共営業部門
田尻 洋己さん

長期的な信頼関係を築くために

地図印刷の仕事に携わっていた経験を活かし、自身の能力をより高めたいという思いから、パスコに入社しました。現在は、北海道内の自治体などへ提案営業を行っています。

技術者の仲間たちと協力しながら、提案から受注まで、チーム全体で進めていくことを心がけています。お客様と長期的な信頼関係を築き、「頼れる営業」を目指して今後も業務に取り組んでまいります。

海外営業部門
根本 沙織さん

衛星利活用を海外へ広めていく

地理学科で“場所と人の繋がり”を学んでいた学生時代に、パスコが空間情報技術を活用して社会課題の解決を支援していると知り入社しました。入社後、国内向けに衛星データを活用したソリューション提案の経験を重ね、今年から海外のお客様への提案を始めています。

細かなヒアリングと密なコミュニケーションで、お客様の本質的な課題解決に向けた支援を続けていきたいと思っています。

ＡＩ教育部門
野村 大祐さん

情報ハブとなり社会へ貢献

空間情報、IT、データ分析の融合技術を身に付けたいという思いで、パスコに入社しました。入社後システム開発などの業務を経験し、現在は全社のAIリテラシー向上のための教育に関する業務に携わっています。

世の中にマッチした新たな提案ができるよう、情報収集のアンテナを広げながら取り組んでいます。社内外の情報ハブとなり、会社と社会に貢献していきたいと考えています。

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当四半期 2019年9月30日現在	前四半期 2018年9月30日現在	前 期 2019年3月31日現在
資産の部			
流動資産	34,821	34,148	51,512
固定資産	14,416	16,412	15,386
資産合計	49,237	50,561	66,899
負債の部			
流動負債	16,272	19,055	33,992
固定負債	17,395	18,527	17,667
負債合計	33,667	37,582	51,659
純資産の部			
株主資本	15,228	12,120	14,527
その他の包括利益累計額合計	△73	428	273
非支配株主持分	415	428	437
純資産合計	15,569	12,978	15,239
負債純資産合計	49,237	50,561	66,899

連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当四半期 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	前 期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高	23,042	20,435	51,903
売上原価	18,117	16,781	39,543
売上総利益	4,924	3,653	12,360
販売費及び一般管理費	5,055	4,914	9,686
営業利益（損失△）	△131	△ 1,260	2,674
営業外収益	68	113	254
営業外費用	155	60	170
経常利益（損失△）	△217	△ 1,207	2,757
特別利益	2,314	12	138
特別損失	1,212	129	900
税金等調整前当期純利益（損失△）	883	△ 1,325	1,995
法人税、住民税及び事業税	784	132	554
法人税等調整額	△609	△ 386	92
非支配株主に帰属する当期純利益	15	21	32
親会社株主に帰属する当期純利益（損失△）	692	△ 1,092	1,316

■キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少12,895百万円により、10,938百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、子会社株式の売却による収入2,681百万円により、1,782百万円の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純減額15,200百万円により、15,223百万円の減少となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当四半期 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	前四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで	前 期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,938	11,642	4,957
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,782	△1,813	△1,803
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,223	△14,434	△3,744
現金及び現金同等物に係る換算差額	△151	△55	△42
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△2,653	△4,661	△632
現金及び現金同等物の期首残高	14,413	15,046	15,046
現金及び現金同等物の期末残高	11,759	10,385	14,413

会社概要

会社名	株式会社パスコ
株式上場	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	9232
住所	東京都目黒区東山1-1-2
設立	1949年7月15日
資本金	8,758,481,700円
従業員数	連結：2,646名、単体：2,130名
事業内容	人工衛星、航空機、ドローン、専用車両、船舶などに搭載した各種センサーを駆使して収集した国内外の空間情報に、加工・処理・解析を施し、お客様の課題解決に向けた空間情報サービスを提供。

役 員

取締役会長	小松 良平	
代表取締役社長	島村 秀樹	
常務取締役	伊東 秀夫	
取締役	高山 俊	
取締役	川久保 雄介	
取締役	高橋 識光	
取締役	神山 潔	
取締役	日根 清	
社外取締役	高村 守	（独立役員）
社外取締役	中里 孝之	（独立役員）
常勤監査役	龍口 敦	
監査役	出井 則行	
社外監査役	笠松 重保	（独立役員）
社外監査役	長坂 省	（独立役員）

株式データ（2019年9月30日現在）

発行可能株式総数 ····40,006,199株　単元株式数 ·····100株
発行済株式数 ·····14,770,266株　株主数 ·····8,341名

大株主	持株数(千株)	割合(%)注1
セコム株式会社	10,316	71.44%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	419	2.90%
MSIP CLIENT SECURITIES	222	1.54%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	198	1.38%
パスコ社員持株会	123	0.85%
三菱電機株式会社	111	0.77%
三菱UFJ信託銀行株式会社	90	0.62%
株式会社三菱UFJ銀行	86	0.60%
株式会社北陸銀行	74	0.51%
花井 利次	66	0.46%

注 1：発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合。なお、当社は自己株式329千株を保有しています。
2：持株数は千株未満切り捨て、割合は小数点第3位を四捨五入。
3：2018年10月1日をもって、単元株式数の引下げ及び株式併合を行いました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金配当の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 電話：0120-232-711（通話料無料） 郵送先：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により行います。 （ホームページアドレス https://www.pasco.co.jp） ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告によることができないときは、東京都において発行する日本経済新聞に掲載します。

投資家の皆様とのコミュニケーションツールを改良しました！

IR情報サイトを完全リニューアル

2019年度に、総務・経理・広報の社員が集まり、IR室を新設しました。少ないメンバーですが投資家の皆様とのコミュニケーションの質の向上に努めています。

今号でご紹介するIR室の活動の一端は、IR情報サイトの完全リニューアルです。

2019年11月7日にリニューアルオープンしたIR情報サイトは、当社の事業モデルや市場環境、経営状況をご理解いただくために必要と考える情報を、“コンパクト”に、そして“分かりやすく”を念頭に構成させていただきました。

本IR情報サイトに掲載する情報が、投資家の皆様のお役に立てることを願っています。

今後も、投資家の皆様とのコミュニケーションの充実を図っていく所存です。是非とも、ご意見、ご要望をお寄せください。

サイトコンテンツのご紹介

- 社長からのご挨拶
- TOPICS
  報道発表や適時開示などの新着情報
- コーポレートプロファイル
  皆様から寄せられる質問項目を元に編集しました。
  PDF形式の冊子版を用意していますのでご活用ください。
- IRライブラリー
- 株主・株式情報
- お問合せ窓口

https://www.pasco.co.jp/ir/

※2019年6月発行の第71期株主通信において、2020年2月開催の個人投資家向けIRフェア（主催：東京証券取引所）への出展を予定している旨、ご紹介させていただきましたが、フェアの開催が中止となり出展できなくなりましたのでお知らせいたします。

株式会社パスコ

本社　〒153-0043　東京都目黒区東山1-1-2
電話 03-5722-7600　ホームページ https://www.pasco.co.jp

non VOC ink eco UV

この印刷物から発生するCO2はカーボンフリーコンサルティング社を通じてオフセットされています。

Carbon Offset for 89 g CO2/copy
Waterless Printing. Naturally

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C009249

PHU-72MBRJV1.1/2019-12